

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科)(2020.12)令和2年度:

,

# 医療従事者の感染対策に関する意識と行動

学生氏名 清水慎也 石谷沙彩  
(指導：伊藤俊弘教授)

## 緒言

感染予防策は患者と医療従事者の保護のため生活・医療のあらゆる場面で実践されている。本研究では感染予防策について文献検討を通して理解を深めることで、今後医療従事者として活動していく上で必要とされる感染予防に関する意識や行動、また感染予防への意識向上に関する取り組みについて明らかにすることでこれからの感染予防行動の質を向上させることを目的とする。そのため、本研究では実践の場を病院等の医療の場、対象を医療従事者と看護学生に限定して研究を行う。

## 研究背景と現在までの知見

研究を行うに至った背景としては、コロナウイルスの流行によって世間全体の感染予防に対する関心が高まっている状況で、我々も日常的に感染予防行動を行う機会が増えてきた。しかし本来なら感染拡大が起こってから感染予防行動を行うのではなく、普段から感染予防行動を行なって感染拡大を未然に防ぐことが望ましい。そういった考えから、現在行われている感染予防行動とその効果、医療従事者の感染予防行動に関する認識、医療従事者や患者が感染予防に関してどのような認識を持っているのか疑問に感じた。感染予防の主力は専門的な知識と技術をもつ医療従事者であるといえる。しかし、日常的に感染のリスクにさらされている医療施設においては医療従事者も感染症に罹患し、ケアを担う一方で自らが感染源となり、ケアを通して病原菌の伝播経路にもなる存在といえる。そのため、医療従事者には感染予防行動に関する知識や技術、正しい認識などが求められる。

感染予防の基本は手指衛生であり、医療施設においてもケア提供者の手指衛生の重要性が示されている。先行研究によると臨地実習における感染予防に対する看護学生の認識の調査や看護師による感染対策への取り組みに関する研究が行われていた。しかし、病棟で行われている医療従事者や患者に対する感染予防への認識や意識向上に関する研究は見当たらなかった。そこで今回、感染予防に関する意識や行動、また感染予防への意識向上に関する取り組みについて文献検討を行うことで感染予防行動の質を向上させる示唆が得られるのではないかと考えた。

## 方法

### 1) 研究対象

2000年以降における、「感染症予防」「感染症対策」「意識向上」「行動変容」「手洗い」をキーワードとする文献。

### 2) データ収集期間

2020年6月から2020年9月

### 3) データ収集方法

医学中央雑誌、J-STAGE、CiNiiなどの検索エンジンを使用して以下の手順で文献の抽出を行い、得られた文献の内容検討を行った。

(1) キーワードを日本語検索エンジンでは「感染症予防」で抽出。

(2) (1) で得られた 118,838 文献を、日本語検索エンジンでは「感染症予防」に加え「感染症対策」「意識向上」「行動」「手洗い」を入れ and 検索。

(3) (2) で得られた 12,082 件の文献を「原著論文」「日本語」「看護」で絞り込みを行い、重複した文献を削除した。(4) (3) で得られた 252 件の文献の中から感染対策の意識向上や行動変容に関する 10 件の文献を分析対象とした。

### 4) 分析方法

分析方法には、内容分析 (content analysis) を用いた。内容分析はテキストのある特定の属性を客観的・体系的に同定し、推論を行うための方法であり、テキストの中で何が語られているのかを知ることを主体としている。本研究ではリサーチクエスチョンを「感染対策に関する意識・行動の変化」とし、論文の内容を「研究デザイン」「目的」「対象(年代・疾患)」「方法」「結果」「考察」にデータ整理した上で、リサーチクエスチョンを抽出し、類似した効果の内容を適確に表す表現へ置き換えた。

### 5) 倫理的配慮

本研究は先行研究に基づく研究であり、引用・参考文献に留意し出典を明示する。

## 結果

分析対象とした 10 論文を分析した。研究デザインは多い順に、調査研究 5 論文、介入研究 4 論文、関係探索型研究 1 論文であった。論文の対象者は複数の対象を設けている論文もあるが、医療従事者が 5 論文と多くを占め、看護師のみを対象とした論文は 4 論文で、そのほか看護学生が 2 論文、医療施設が 1 論文であった。感染対策に関する意識について述べていた文献

は10論文中8論文であり、その中で感染対策に関する意識の変化について述べていた文献は5論文であった。感染対策に関する行動について述べていた文献は10論文中8論文であり、その中で感染対策に関する行動変容について述べていた文献は3論文であった。

感染対策に関する意識・行動について、以下の内容があった。

(1) 手洗い指導や掲示物等の実施が看護師の感染対策の意識向上や行動変容につながる。

(2) 看護学生は感染経路に関する理解が不足しており、感染対策に関する学習の必要性を感じている。

(3) 臨地実習における看護学生は手洗いの重要性について認識し、意識して手洗いを実施している。

(4) 看護師の手洗い行動には忙しさ、教育、経験などの因子が影響している。

(5) 口頭伝達による感染対策の意識向上は根付きにくく、勤務状況が忙しくなると手指衛生を忘れてしまう傾向がある。

(6) スタッフ全員で現状を共通理解することが組織全体の感染管理意識の向上につながった。

(7) 感染症対策研修会の参加者は96%が研修会の内容が役立ったと感じ、現状の感染予防行動や意識の低さに危機感を示すものもいた。

(8) 接触感染予防行動が徹底できない理由として、接触感染に対する正しい知識不足があり、消毒を徹底できる環境や勉強会の開催が必要である。

(9) 診療所の感染対策は訪問看護の感染対策に影響を与えているため、診療所の感染対策の充実が求められる。

## 考察

### 1. 感染対策の現状

結果より、感染に関する知識に関しては看護学生、医療従事者ともに不足している部分があり、なかでも感染経路に関する知識不足が多く見られた。また、十分な知識を持っていてもそれが実際の行動に反映されていないケースも多く見られている。そういったケースは大部分が感染対策行動に関する意識が低く、本来行うべき感染対策行動に必要な重要性を感じていない場合がある。

### 2. 感染対策に影響する要因

結果より、感染対策に影響する要因として忙しさや知識、経験が挙げられる。その要因のいずれもが個人の状況よりも対象のいる環境が大きく影響している。忙しさに関しては医療従事者の勤務環境が直接影響しており、知識・経験に関しては看護学生の学習環境や病院で行われている勉強会の実施などが影響している。また、感染対策

の意識向上に関しても個人に対する働きかけよりも集団・組織全体に対する介入が効果的であり、スタッフ全員が感染対策の現状について共通認識を持ち、お互いの行動変容に関して働きかけることが集団全体の感染対策の意識向上・行動変容につながっていくと考えられる。同様に、感染対策に関する教育は、病院職員全員に行われることが重要である。知識のない人や注意事項を守らない人が一人でもいるとそこから院内感染が広がる。患者に密に接する医師や看護師はもちろん、薬剤耐性菌の検出情報等を豊富にもつ検査部、抗生物質の使用状況を把握している薬剤部、感染対策に必要な企画や予算確保を担当する事務局などすべての職員に教育や討議の機会をもつことが重要である。また、感染対策は行動の結果が明確に示されるものではなく、長期的に継続して行うことが前提となってくるため、病院職員全員が院内感染に対する認識を高め、正しい知識をもち、そして粘り強く対策にとりくむ姿勢が重要になると思われる。

## 謝辞

本研究にご協力いただきました大学関係者の皆様、研究の指導を行っていただきました伊藤俊弘教授、濱田珠美教授に心から感謝の意を表します。

## 引用文献

- 1) 黒須 一見(東京都立荏原病院 看護科), 太田 真弓, 市川 利枝, 小川 和子, 深澤 けい子, 江国 かほる, 茂木 玲子, 工藤 晶子, 吉山 明子, 根本 美恵子: 医療従事者の手洗い行動改善への取り組み(第1報)看護師へのアプローチ: 2001
- 2) 土井 まつ子(愛知医科大学 看護学部), 篠田 かおる, 橋本 真紀代, 高橋 知子: 院内感染対策の包括的な支援プログラムによる中規模病院への支援とその評価: 2011
- 3) 名渡山 智子(沖縄県立看護大学 看護学部), 仲宗根 洋子: 看護学生の感染防止に関する理解と臨地実習における感染防止対策の実施状況: 2004
- 4) 吉井 美穂(富山大学 医学部看護学科), 八塚 美樹, 塚原 節子, 落合 宏: 看護学生の臨地実習における感染防止対策に関する意識と実際: 2002
- 5) 大須賀 ゆか(宮城大学 看護学部): 看護師の手洗い行動に関係する因子の検討: 2004
- 6) 望月 裕美(静岡赤十字病院), 太田 望都, 小杉 麻貴, 戸田 さくら, 白鷺 智帆, 安田 史, 三浦 智美: 救命救急センター病棟の感染対策の取り組み・成果と課題: 2018
- 7) 横尾 静江: 手術室における感染管理意識の向上~医療 KYT6 ラウンド法を用いて~: 2014
- 8) 吹田夕起子, 福井幸子, 矢野久子, 前田ひとみ, 細川満子: 地域包括ケアを担う医療従事者を対象とした感染症対策研修会の有効性と課題: 2013
- 9) 酒井 真未(東京医科大学病院 看護部), 板倉 亜樹: 当病棟における接触感染予防に対する意識・行動の現状: 2013
- 10) 福井 幸子(青森県立保健大学), 吹田 夕起子, 細川満子, 矢野 久子, 前田 ひとみ: 訪問看護に影響を与える診療所の感染対策の実態と課題: 2017